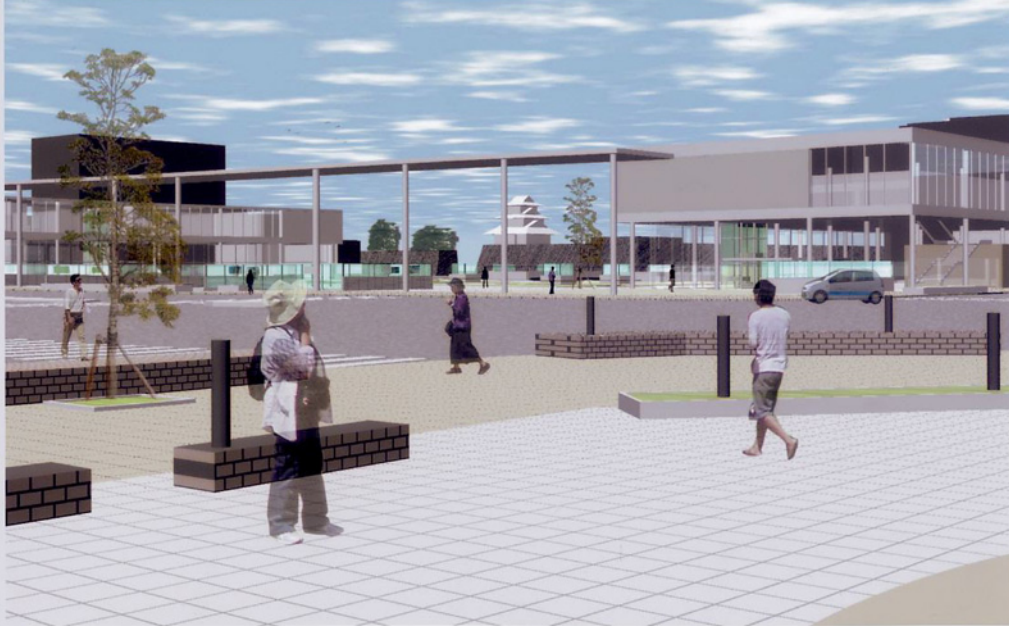


Insertion

街に挿入され街にウモレル



駅から離れ、商業地として成り立つことが困難な街、活気の少ない街には魅力がないかもしれない。
しかし街はそこに住む人、またそれ以上に外部から訪れる人に対してそのアイデンティティを示していかなければならない。

それを示すことのない街は活気があったとしても人に何も問いかねはしない

その場の意味を問うもの、気がつかせてくれるもの
そのような施設を街中に挿入し、埋めることから計画をはじめた



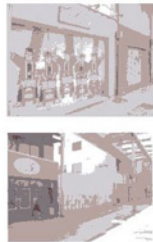
back ground

□街のアイデンティティを求めて

—三重県津市市街地—

津市中心街、全国の多くの地方都市同様その空洞化は大きな課題のひとつである。郊外の大型商業施設の発達によって中心の商業施設は衰退し街に空白を残していく。

かつて街は港を中心に栄え、その後は城下町として発展してきた。
しかし街を繋げるように開通した鉄道と、南北に通る国道は街の中心性を次第に奪われていった
駅を持たない中心街は活気のみでなく街の顔としての役割をも失ってしまっている。



□新たなスタイルを求めて

—県立博物館の老朽化—

津市立博物館
昭和28年開館の県立博物館は県の文化施設としての役割を果してきた。

現在施設が老朽化し、要求される機能を十分満たせないまま運営が続けられている。
何處となく建て替えの計画が持ち上がり機運もほぼ固められていた。しかし2005年3月建設計画の中止が決定



県の文化施設として有効に活用されないまま郊外に取り残されている

□街の再認識を行う軸へ

街は南北の国道と東西の幹線道路の二つの軸を持っている。
2004年中部国際空港開港に伴って津が開港し、東西軸の東北側に新たな街の空間が加えられた。もう一方の軸は高速道路インターでありいずれも県の外部へとつながってゆく。

港の開港は軸を完成させると同時に、街がかつて港町であったことを再認識させてくれた。

今後この軸はこのような地域のアイデンティティを感じられる場となってゆくことが求められる。



南北と東西の軸が交わる市街地。
現在市や県のアイデンティティを感じられないこの場所に建設されることになった博物館、加えて広場、教育施設を提案する。

郊外に残されていた博物館は街に挿入されることで単なる保存、展示の場から情報を発信する場となる。
同時に街にはアイデンティティを感じるきっかけとなる場が生まれる



site

□敷地とその現状

国道と幹線道路の交差点付近。周囲には郵便局、文化施設、商店街が建ち並び、この交差点の四つ角の一角を敷地として選択する。

敷地は数年前まで複合商業施設が建っていた場所である。しかしそこには中心的な空間、滞留を促すような空間はなく、訪れる人も用を済ませそのまま街を通過して行かざるを得ない。

その後駐車場となり、特に有効な活用もされないまま現在に至っている。



Site map scale=1:1500

10 50 100 150m

proposal

□通過型の街に与えられる場

現在の市街地は中央郵便局、文化センター、一部の複合商業施設を目的として訪れる人が大半である。しかしそこには中心的な空間、滞留を促すような空間はなく、訪れる人も用を済ませそのまま街を通過して行かざるを得ない。

挿入される施設はこのような街の中に滞留的な場として挿入され新たな活動の場となる。

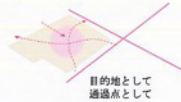


都市的なスペースの不足

滞留的な場の挿入

□周囲との連続

施設は街中に挿入されることで、目的地としてだけでなく通過点として使用されるようになる。周囲の活動と連続させることで目的地として訪れる人、通過してゆく人双方への情報発信、働きかけを行う。



目的地として
通過点として

□存在の薄れた史跡の再認識

津は城下町として整備され、そのまま異郷として歩んできた歴史を持っている。

しかしその根拠となった津城址は周囲を住宅・商業ビル等によって囲まれ、外部に対して閉ざされている。

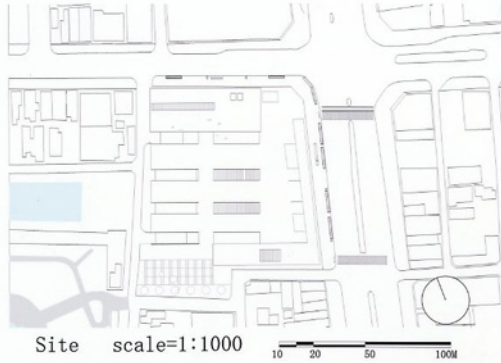
歴史的に重要な意味を持つ史跡を街に対して開放する。



design process

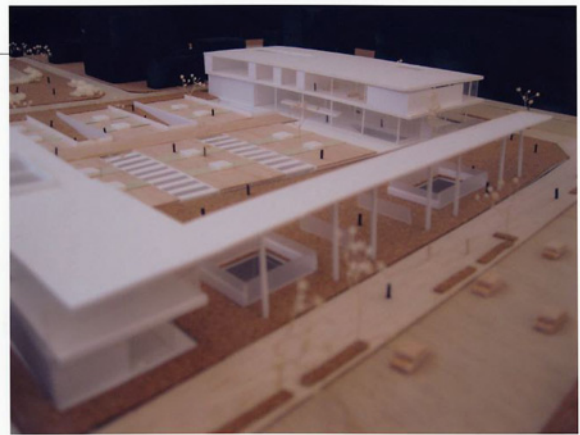
都市的な場、街の活動との連続、史跡の再認識といった提案に沿った機能を敷地に持たせていく。

周囲の状況を考えて計画を行う



Site scale=1:1000

10 20 50 100m



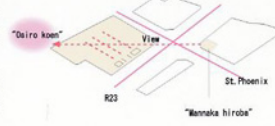
Process 1

敷地に広場としての性格を持たせる
交差点、城、既存の広場と連続する空間が生まれる



Process 2

外部から主要なアクセスを持たない城に対して軸を定める
同時に交差点、向かいのまんなか広場からの視線を確保する



Process 3

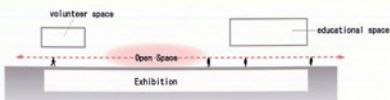
広場の周囲を取り囲むように建築を配置する。オープンな視線と空間によって視線、動線が広場・背後の城へと通される



街から広場へと通過する際に活動の誘発が行われる

Process 4

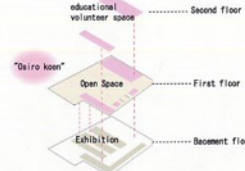
展示スペースを地下に、教育スペースを二階レベルとし、地上階・広場と周囲との連続を保つ

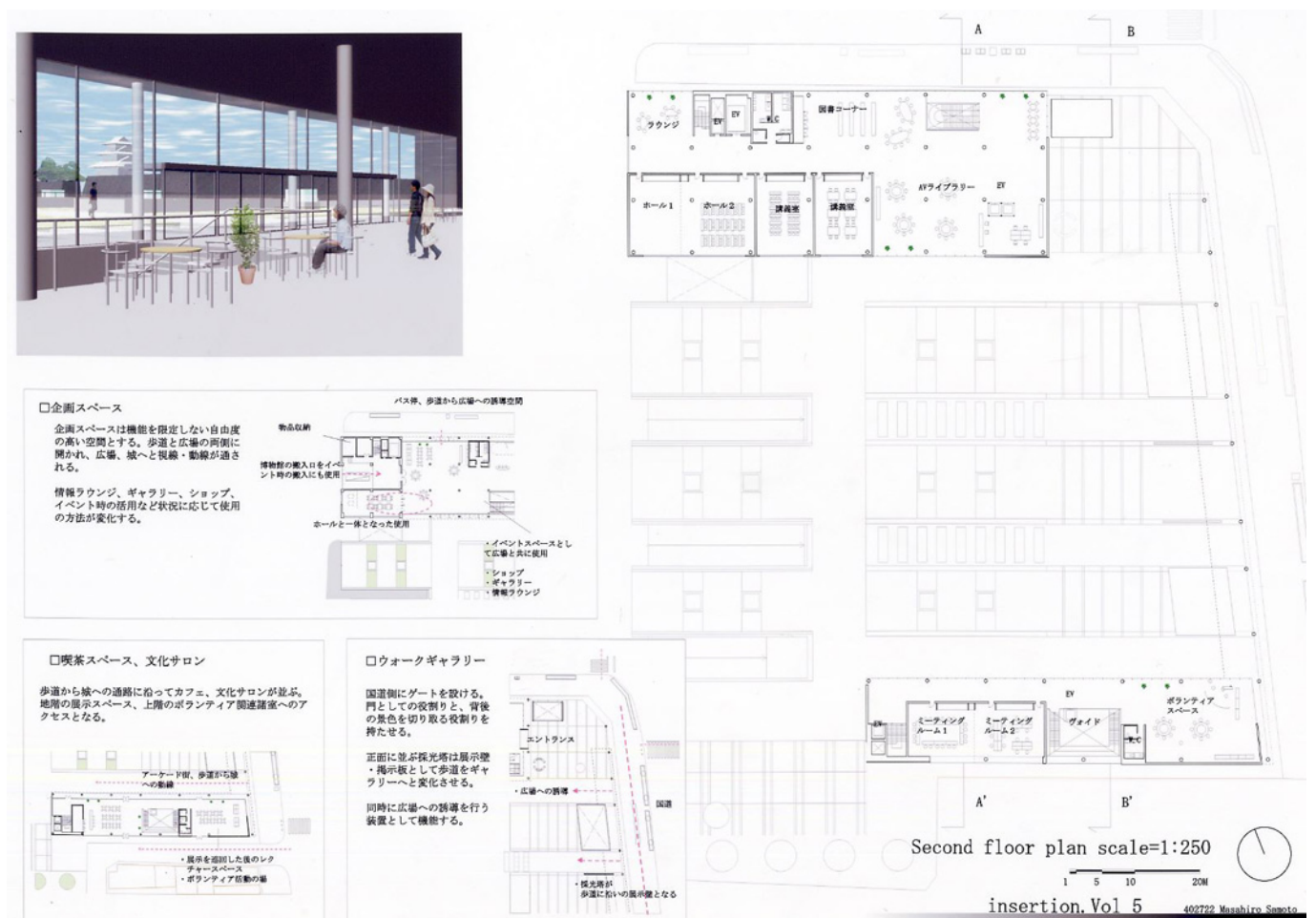
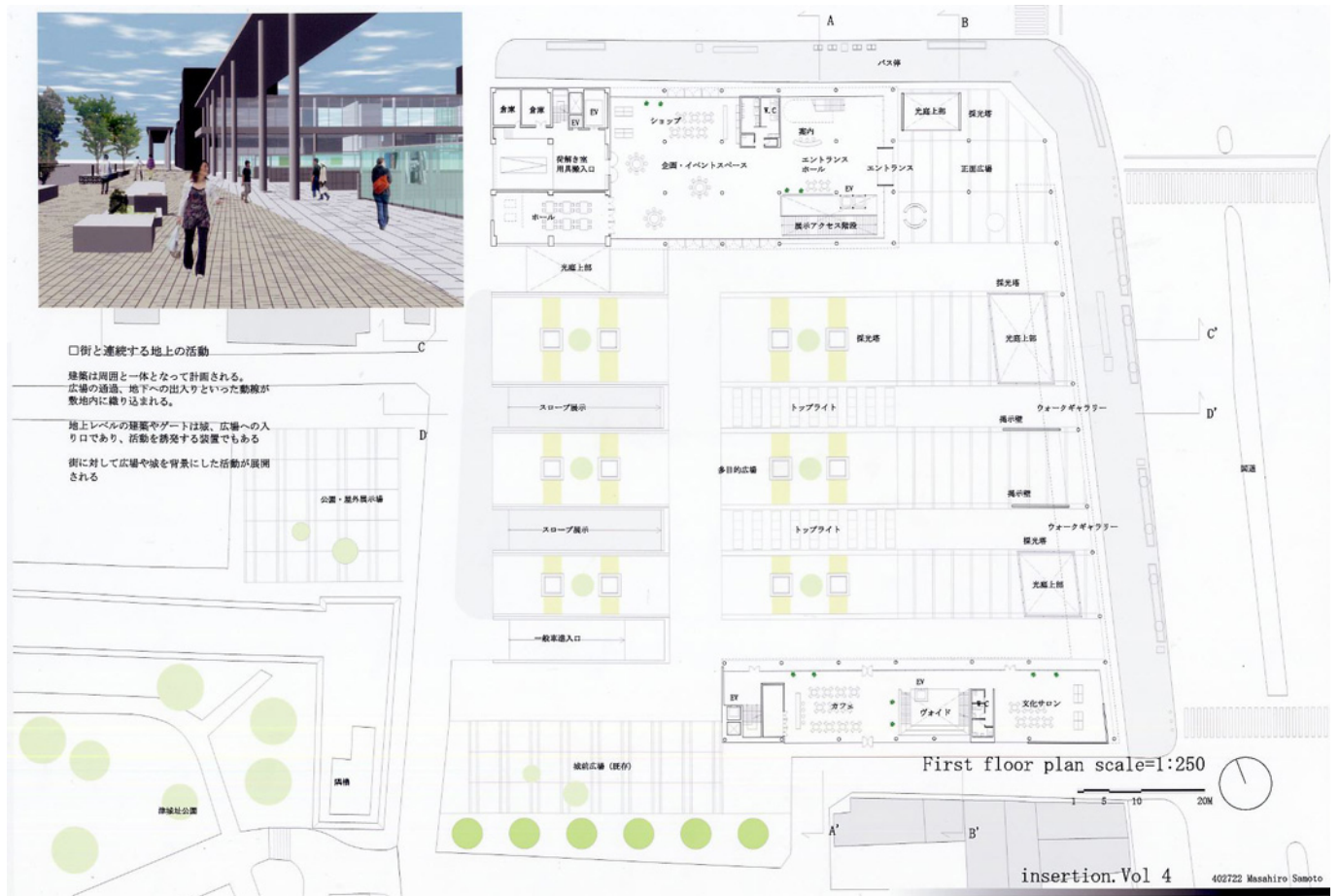


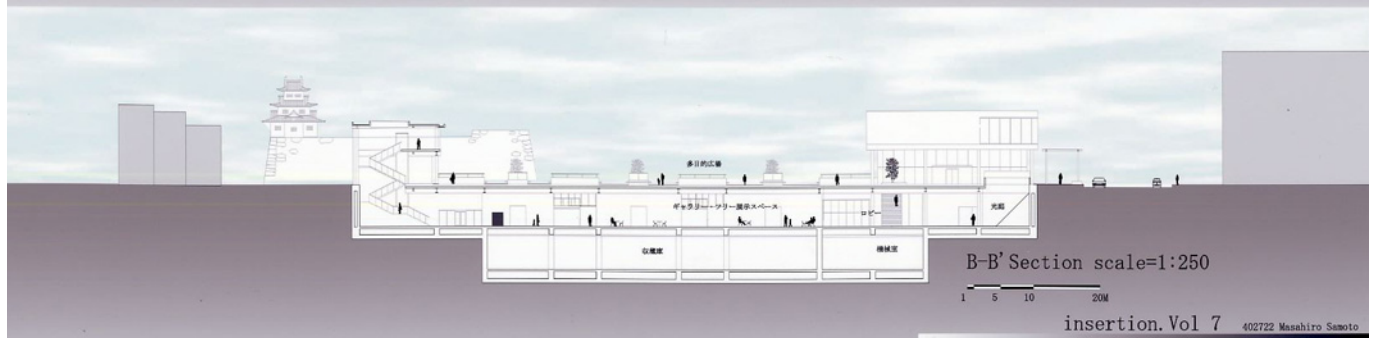
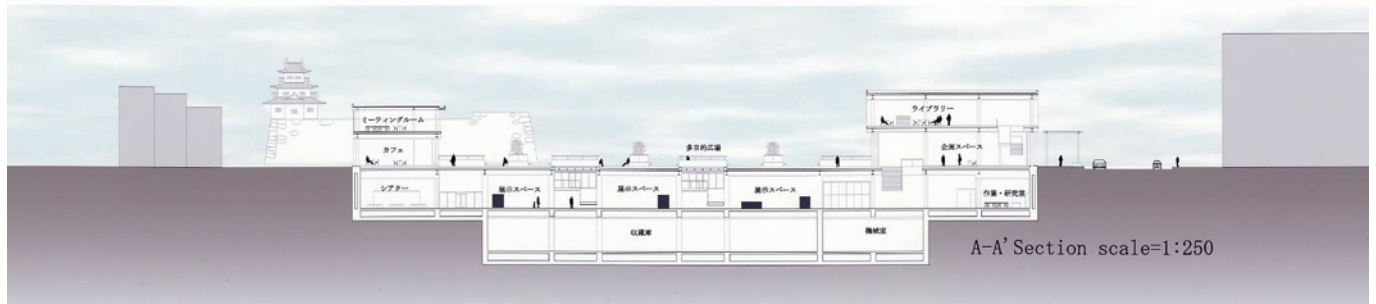
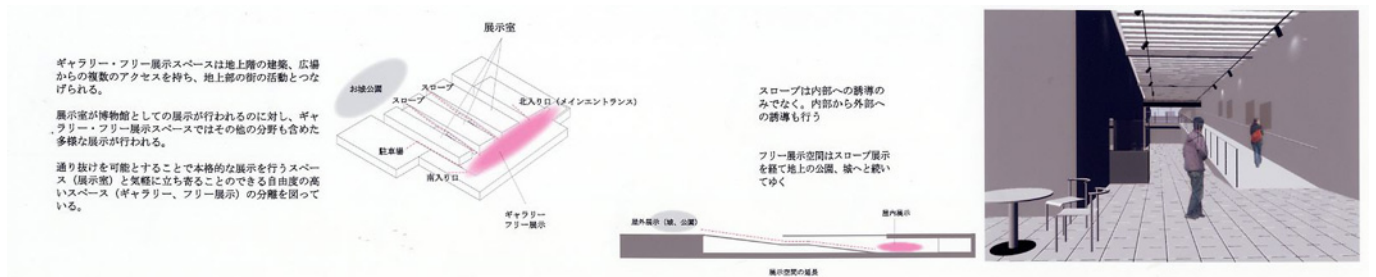
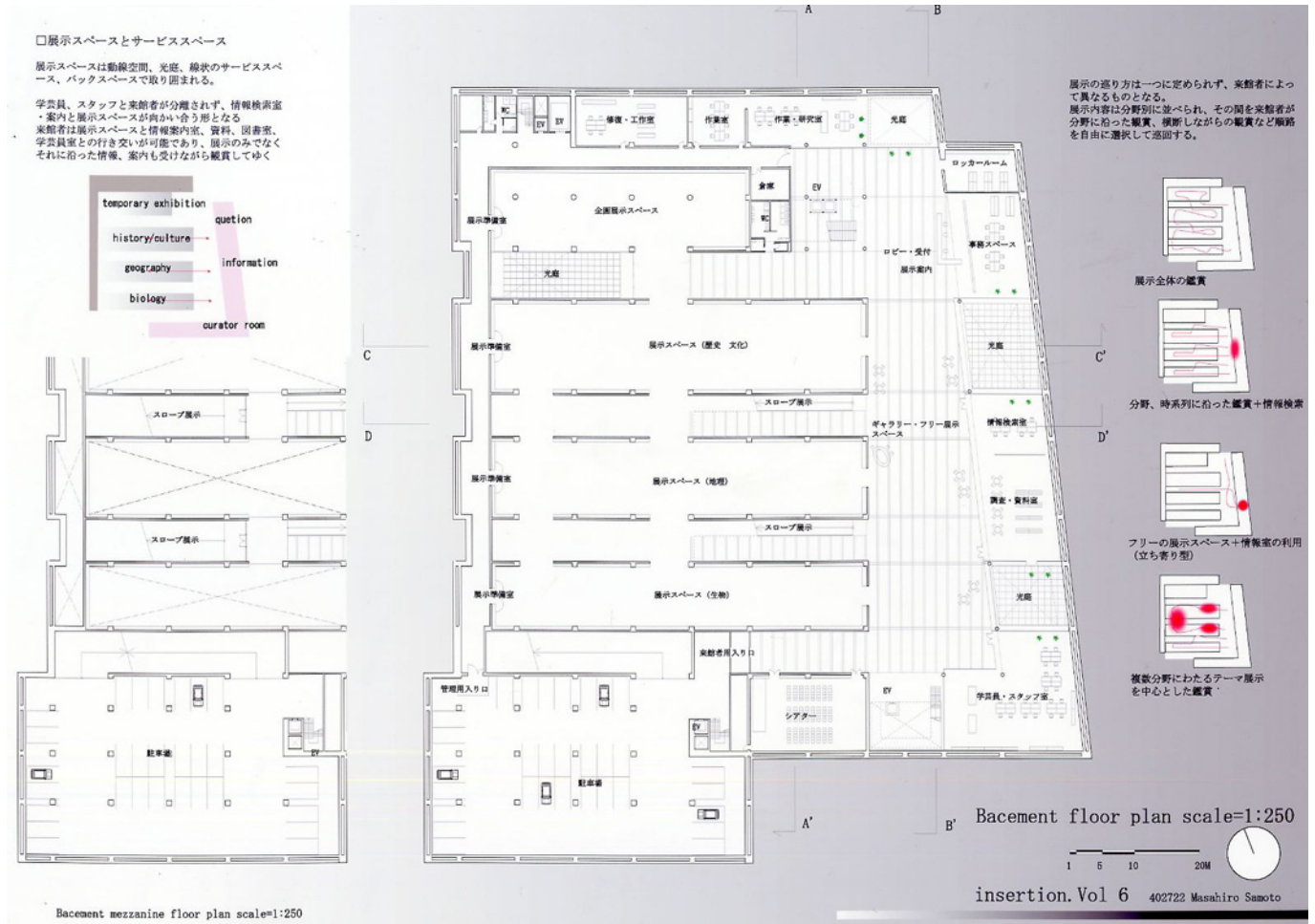
Process 5

機能ごとに分かれたそれぞれのレベルは重ねられ線のつながりをもつ

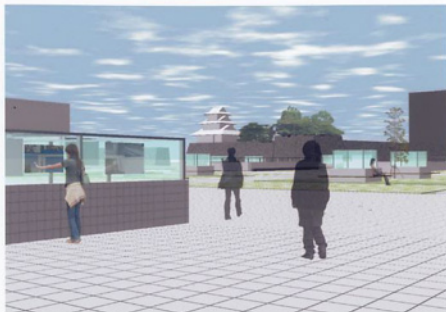
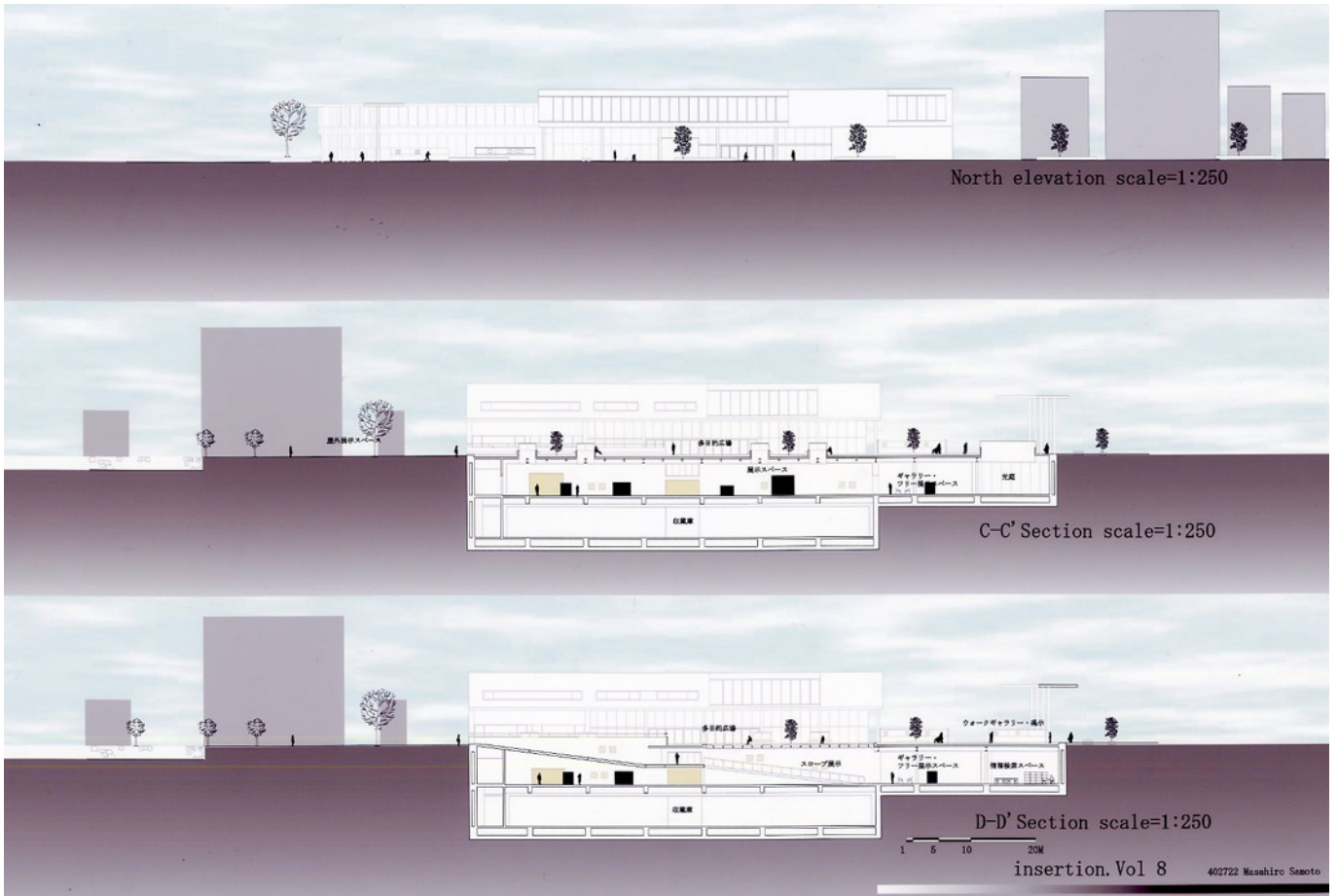
展示スペースから教育スペース、広場から展示スペース等、それぞれのレベル相互の行き交いのある空間となる







「insertion ～街に挿入され街にウモレル～」 402722 佐本 雅弘

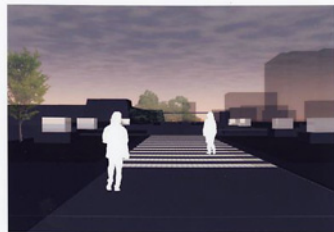
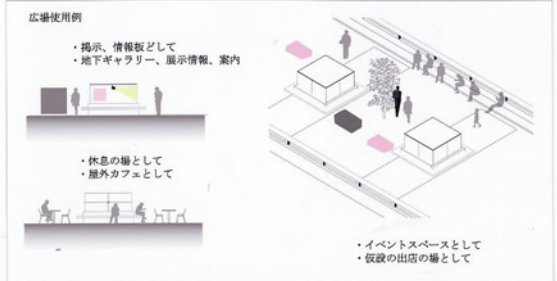


□多目的広場一帯中展示空間一

広場は屋外の展示場として国道と城の間を展示空間化する。広場の利用者、通過してゆく人への情報提供を行う。

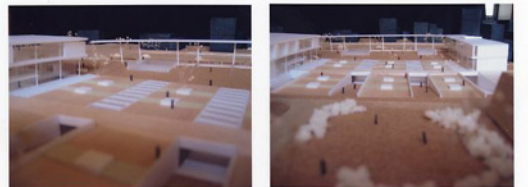
又城の前庭として、都市広場として、展示以外にイベント等で多目的な使用がなされる

規則的に並ぶ採光塔や、手すり沿いの長椅子は広場での展示、イベントを行う際に活用することが可能となっている。



展示館、採光塔は広場外から城への視線をさえぎらない高さに抑えられる

トップライトはそのまま広場の照明装置となつて、夜に国道から城の方面への軸を浮かび上げさせる



やがて街に市街地居住や歴史・文化を軸にした再生が行われる時、この場所がきっかけとなり、ここから活動が広げられることを期待する

